

商品名 アトルバスタチン錠10mg「トーワ」 医薬品基本情報

薬効	2189 その他の高脂血症用剤	一般名	アトルバスタチンカルシウム水和物錠
英名	Atorvastatin TOWA	剤型	錠
薬価	13.90	規格	10mg 1錠
メーカー	東和薬品	毒劇区分	

アトルバスタチン錠10mg「トーワ」の効能・効果

高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症

アトルバスタチン錠10mg「トーワ」の使用制限等

1. 本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、肝代謝能が低下又はその恐れ・疑い、黄疸、肝臓、肝硬変、急性肝炎、慢性肝炎の急性増悪、グレカプレビル・ピブレンタスビル投与中	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	禁止
2. 腎機能検査値異常	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	相対禁止
3. 家族性高コレステロール血症ホモ接合体	記載場所	効能・効果
	注意レベル	注意
4. 糖尿病、横紋筋融解症を起こし易い体質、甲状腺機能低下症、筋ジストロフィーの家族歴、遺伝性筋疾患の家族歴、筋ジストロフィー、遺伝性筋疾患、薬剤性筋障害の既往、アルコール中毒、重症筋無力症又はその既往、腎障害又はその既往、肝障害<急性肝炎・慢性肝炎の急性増悪・肝硬変・肝臓・黄疸を除く>又はその既往	記載場所	使用上の注意
	注意レベル	注意

アトルバスタチン錠10mg「トーワ」の副作用等

1. 筋肉痛、脱力感、CK上昇、血中ミオグロビン上昇、尿中ミオグロビン上昇、横紋筋融解症、急性腎障害、重篤な腎障害、ミオパチー、広範な筋肉痛、筋肉圧痛、著明なCK上昇、近位筋脱力、CK高値、炎症を伴わない筋線維壊死、抗HMG-C oA還元酵素抗体陽性、抗HMGCR抗体陽性、免疫介在性壊死性ミオパチー、劇症肝炎、肝炎、肝機能障害、黄疸、血管神経性浮腫、アナフィラキシー反応、蕁麻疹、過敏症状、無顆粒球症、汎血球減少症、血小板減少症、中毒性表皮壊死融解症、Toxic Epidermal Necrolysis、TEN、皮膚粘膜眼症候群、Stevens-Johnson症候群、多形紅斑、水疱性発疹、高血糖、糖尿病、間質性肺炎、発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常、重症筋無力症、眼筋型重症筋無力症、全身型重症筋無力症、重症筋無力症悪化、眼筋型重症筋無力症悪化、全身型重症筋無力症悪化

記載場所	重大な副作用
頻度	頻度不明

2. AST上昇、ALT上昇、γ-GTP上昇、CK上昇、テストステロン低下

記載場所	その他の副作用
------	---------

3. 脱毛症、光線過敏、皮膚乾燥、皮膚亀裂、爪障害、血小板減少、白血球減少、貧血、脾炎、胆汁うっ滞性黄疸、食欲不振、消化不良、悪心、口渇、舌痛、舌炎、舌のしびれ、口のしびれ、口唇炎、咽頭不快感、痙攣、筋炎、筋肉痛、血中ミオグロビン上昇、無力症、関節痛、顎のこり、肩こり、胸痛、背部痛、こわばり感、腱炎、腱痛、異常感覚、末梢神経障害、耳鳴、霧視、勃起障害、四肢しびれ、四肢しびれ感、眠気、健忘症、抑うつ、悪夢、女性化乳房、代謝異常、低血糖症、BUN上昇、血中クレアチニン増加、血尿、浮腫、顔面浮腫、四肢浮腫、動悸、頻脈、味覚異常、頻尿、排尿困難、着色尿、熱感、発熱

記載場所	その他の副作用
頻度	頻度不明

4. 皮膚そう痒感、発疹、皮疹、発赤、Al-P上昇、LDH上昇、肝障害、アミラーゼ上昇、嘔吐、下痢、胃炎、軟便、嘔気、口内炎、胸やけ、便秘、胃不快感、腹痛、心窩部痛、心窩部疼痛、腹部膨満感、咳、めまい、不眠、不眠症、コリンエステラーゼ上昇、TSH上昇、ACTH上昇、アルドステロン低下、グルコース上昇、HbA1c上昇、血清鉄低下、K上昇、脳梗塞、肺炎、頭痛、全身倦怠、全身倦怠感、带状疱疹

記載場所	その他の副作用
頻度	5%未満

5. 劇症肝炎、肝炎

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

6. 無顆粒球症、汎血球減少症、血小板減少症

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

7. 高血糖、糖尿病、口渇、頻尿、全身倦怠感

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

8. 横紋筋融解症、出生仔数減少、生存・発育に対する影響、胎仔生存率低下、胎仔発育抑制、胎仔骨格奇形、先天性奇形

記載場所	使用上の注意
頻度	頻度不明

アトルバスタチン錠10mg「トーワ」の相互作用

1. 薬剤名等：グレカプレビル・ピブレンタスビル

発現事象	アトルバスタチンのAUCが8.28倍・Cmaxが22.0倍に上昇、本剤の血中濃度が上昇し副作用が発現しやすくなる	投与条件	グレカプレビル・ピブレンタスビル(400mg・120mg)との併用
理由・原因	グレカプレビルのOATP1B1／1B3及びBCRP阻害、ピブレンタスビルのOATP1B1及びBCRP阻害に基づく作用	指示	禁止

2. 薬剤名等：フィブラート系薬剤

発現事象	急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症、自覚症状＜筋肉痛・脱力感＞、血中及び尿中ミオグロビン上昇、血清クレアチニン上昇、CK上昇、腎機能の悪化	投与条件	腎機能検査値異常
理由・原因	-	指示	相対禁止

3. 薬剤名等：ニルマトレルビル・リトナビル

発現事象	本剤の血中濃度が上昇、本剤の副作用が発現しやすくなる	投与条件	-
理由・原因	本剤の代謝を競合的に阻害	指示	慎重投与

4. 薬剤名等：フィブラート系薬剤

発現事象	脱力感、筋肉痛、急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症、血中及び尿中ミオグロビン上昇、CK上昇	投与条件	-
理由・原因	フィブラート系薬剤とHMG-CoA還元酵素阻害剤との副作用誘発性の相加作用	指示	注意

5. 薬剤名等：ニコチン酸製剤

発現事象	脱力感、筋肉痛、急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症、血中及び尿中ミオグロビン上昇、CK上昇	投与条件	-
理由・原因	ニコチン酸製剤とHMG-CoA還元酵素阻害剤との副作用誘発性の相加作用	指示	注意

6. 薬剤名等：免疫抑制剤

発現事象	脱力感、筋肉痛、急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症、血中及び尿中ミオグロビン上昇、CK上昇	投与条件	-
理由・原因	シクロスポリンとHMG-CoA還元酵素阻害剤との副作用誘発性の相加作用、シクロスポリンによるHMG-CoA還元酵素阻害剤の代謝・胆汁中排泄に対する競合阻害に基づく相互作用、シクロスポリンによる本剤の肝への取り込み阻害に基づく相互作用	指示	注意

7. 薬剤名等：アゾール系抗真菌薬

発現事象	脱力感、筋肉痛、急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症、血中及び尿中ミオグロビン上昇、CK上昇	投与条件	-
理由・原因	アゾール系抗真菌薬又はエリスロマイシンのCYP3Aに対する阻害作用	指示	注意

8. 薬剤名等：エリスロマイシン

発現事象	脱力感、筋肉痛、急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症、血中及び尿中ミオグロビン上昇、CK上昇	投与条件	-
理由・原因	アゾール系抗真菌薬又はエリスロマイシンのCYP3Aに対する阻害作用	指示	注意

9. 薬剤名等：クラリスロマイシン

発現事象	本剤の血漿中薬物濃度の有意な上昇	投与条件	-
理由・原因	クラリスロマイシンのCYP3A4に対する阻害作用	指示	注意

10. 薬剤名等：HIVプロテアーゼ阻害剤

発現事象	本剤のAUCが5．88倍に上昇	投与条件	-
理由・原因	これらの薬剤によるCYP3A4の阻害	指示	注意

11. 薬剤名等：エンシトレルビル フマル酸

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し副作用が発現しやすくなる	投与条件	-
理由・原因	エンシトレルビル フマル酸のCYP3Aに対する阻害作用	指示	注意

12. 薬剤名等：グラゾプレビル

発現事象	本剤の血漿中薬物濃度が上昇＜AUC0－∞：3．00倍＞、本剤の血漿中薬物濃度が上昇＜Cmax：5．66倍＞	投与条件	グラゾプレビル（200mg）
理由・原因	グラゾプレビルによる腸管のCYP3A及びBCRPの阻害	指示	注意

13. 薬剤名等：レテルモビル

発現事象	本剤の血漿中薬物濃度が上昇	投与条件	-
理由・原因	レテルモビルによるCYP3A、OATP1B1／1B3及びBCRPの阻害	指示	注意

14. 薬剤名等：フチバチニブ

発現事象	本剤の血中濃度が上昇し副作用が発現しやすくなる	投与条件	-
理由・原因	フチバチニブによるBCRPの阻害	指示	注意

15. 薬剤名等：グレープフルーツジュース

発現事象	本剤のAUC0－72hが約2．5倍に上昇	投与条件	グレープフルーツジュース1．2L／日との併用
理由・原因	グレープフルーツジュースによるCYP3A4の阻害	指示	注意

16. 薬剤名等：エファビレンツ

発現事象	本剤の血漿中薬物濃度が低下	投与条件	-
理由・原因	エファビレンツによるCYP3A4の誘導	指示	注意

17. 薬剤名等：リファンピシン

発現事象	本剤の血漿中薬物濃度が低下	投与条件	リファンピシン 投与17時間後に 本剤を投与
理由・原因	リファンピシンによるCYP3A4の誘導	指示	注意

18. 薬剤名等：ベキサロテン

発現事象	本剤のAUCが約50%低下	投与条件	-
理由・原因	ベキサロテンによるCYP3A4の誘導	指示	注意

19. 薬剤名等：陰イオン交換樹脂

発現事象	本剤の血漿中薬物濃度が約25%低下	投与条件	-
理由・原因	これらの薬剤によるアトルバスタチンの吸収阻害（吸着）	指示	注意

20. 薬剤名等：ジゴキシン

発現事象	血漿中ジゴキシン濃度が上昇	投与条件	-
理由・原因	本剤によるジゴキシンのP-gpを介した排出の抑制	指示	注意

21. 薬剤名等：経口避妊薬

発現事象	血漿中濃度の上昇	投与条件	-
理由・原因	本剤によるノルエチンドロン及びエチニルエストラジオールの初回 通過効果の減少	指示	注意



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『DIR』